

第一、第二卵割が正常な Day3 胚では形態評価は妊娠率に影響しない

高門千絵<sup>1</sup>、佐藤学<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>、森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IVF なんばクリニック <sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

これまで初期胚は形態と細胞数を元に評価してきたが、タイムラプスインキュベーターを使った経時的観察で正常、異常卵割胚の存在が明らかになり、胚評価が変化した。そこで、今回は Day3 における正常卵割胚で形態評価が臨床成績に影響するか調査した。

### 【方法】

2016 年 11 月から 2018 年 8 月に融解胚移植を行った 894 症例を対象とした。CCM-iBIS (ASTEC) を用いて、第一、第二卵割が正常の場合は正常卵割胚、それ以外は異常卵割胚と評価後に Day3 でガラス化保存した。39 歳以下では単一胚移植、40 歳以上では単一胚移植、もしくは 2 個 (うち少なくとも 1 個は正常卵割胚) 胚移植を対象とし、形態別 (Veeck 分類 G1-G3) と細胞数別 (6 以下、7-9、10 以上) の臨床的妊娠率、および流産率を検討した。

### 【結果】

39 歳以下の形態別妊娠率 (G1: 35.8%、G2: 42.0%、G3: 33.3%)、流産率 (G1: 27.6%、G2: 17.6%、G3: 30.4%) に差はなかった。細胞数別では 6 細胞以下の群は妊娠率が低かった (6 以下: 18.4%、7-9: 40.7%、10 以上: 45.2%、 $p < 0.05$ )。流産率に差はなかった (6 以下: 28.6%、7-9: 20.2%、10 以上: 35.7%)。40 歳以上の形態別妊娠率に差はなかった (G1: 14.0%、G2: 14.7%、G3: 14.2%)。G3 の流産率が他の群に比べ有意に低かった (G1: 63.0%、G2: 55.0%、G3: 18.8%、 $p < 0.05$ )。細胞数別では妊娠率 (6 以下: 9.1%、7-9: 14.2%、10 以上: 22.7%)、流産率 (6 以下: 60.0%、7-9: 51.5%、10 以上: 40.0%) とともに差はなかった。

### 【考察】

正常卵割胚を前提にした場合、形態評価が妊娠率へ与える影響は少なく、タイムラプス観察で卵割様式をチェックすることが重要であると考えられる。また患者年齢に関わらず形態では妊娠率に差はなく、7 細胞以上の胚を選択することが好ましいと考えられる。